

ビワ生育情報

千葉県
平成22年12月号

平成22年11月の気象

平成22年11月の半旬別気象は表1に示した。平均気温は第1及び第4半旬を除く4半旬で平年を上回り、月平均気温は13.6℃で、平年より0.4℃、前年より0.6℃高かった。

降水量は第1及び第5半旬は平年より非常に多く、他の4半旬は平年を下回った。月合計は163mmで平年より38mm(30%)多く、前年より70mm(30%)少なかった。

日照時間は第1及び第2半旬は平年より多く、他の4半旬は平年を下回った。月合計は142時間で平年より2時間(1%)少なく、前年より23時間(19%)多かった。

表1 平成22年11月の気象 (館山測候所)

半旬	気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	15.0	15.2	14.2	73	25	68	38	24	23
2	15.3	14.5	16.4	0	24	15	33	24	35
3	14.1	13.7	15.0	1	23	71	20	23	9
4	11.2	12.9	9.8	10	20	47	11	23	10
5	13.6	11.9	10.6	64	18	19	16	24	17
6	12.4	11.0	11.9	16	17	15	24	25	26
平均/計	13.6	13.2	13.0	163	125	233	142	144	119

1月の作業 (花房の発育は次ページ)

ビワは、厳寒期に入ると枝葉の伸長及び根の活動は停滞するが、開花は引き続き進行し、幼果はわずかながら肥大する。本年は開花の進みが平年よりやや遅く、寒害の影響は少ないと予想される。1月は春からの本格的な肥大にそなえての追肥時期である。

苗木の植え付け

ビワの苗木の植え付けは2月中下旬が適期であり、植え付けの準備は早めにしておく。ビワの根は3月上旬から動き始めるので、その前に定植を終えるようにする。

寒害対策

ビワの幼果は、-3℃以下の低温に遭遇すると、胚(種子)が凍死し、成長が止まり落果してしまう。蕾あるいは開花中の花は寒害を受けにくい、受精後は幼果の発育が進むにつれて凍死しやすくなる。本年の開花の進みは平年よりやや遅く(表3)、1~2月の平均気温は平年並みかやや高くなると予想されており(気象庁)、寒害の被害は少ないと予想される。しかし、早生品種を中心に、開花が終了する1月中旬頃から寒害対策が必要となってくる。

ビワの寒害は大陸性高気圧のもたらす寒波によって引き起こされる。本格的な寒波は1月中旬から3月上旬の間に数回襲来する。この時には、ビワ園を防寒して寒害を回避する必要がある。幼木園では、こも等の被覆資材で樹体を覆う方法、あるいは枝同士を結束する方法が効果的である。成木園では、園内をヒーターで加温して寒害を防止する。火点設置場所の整備と火点及び燃料の準備をしておく。

施 肥

果実の肥大及び春枝の発芽、伸長のための春肥は、追肥または実肥と呼ばれ、1月中に施用する。ビワの根は冬期もわずかながら伸長しており、2月下旬には活発になる。春肥はこの時期に合わせて早めに施すのが一般的で、年間施肥量の30%程度を施用する。時期別の標準施肥量は表2に示した。

表2 ビワの時期別標準施肥量 (成分量 kg/10a)

時 期	耕土の浅い園			耕土の深い園		
	窒素	りん酸	加里	窒素	りん酸	加里
9月上旬(基肥)	12	9	9	11	9	7
1月中旬(春肥)	10	9	5	7	8	3
6月上旬(夏肥)	5	4	4	5	3	3
合 計	27	22	18	23	20	13

(千葉県主要農作物等施肥基準より)

使用上の留意事項

1. 土壌pHは6.0～6.5に矯正する。
2. 苦土石灰は1月または9月施肥の2週間前に施用し、その後耕うんする。
3. 施肥後は軽く耕うんする。ただし、夏肥施用後は、その必要はない。
4. 有機物は積極的に投入する。有機物の深層施用には必ず完熟堆肥を用いる。

樹及び花房の発育

ビワの開花期は表3に示した。

暖地園芸研究所の開花始期は、「楠」が11月7日で、平年より2日、前年より1日早かった。「大房」は12月1日現在で開花始期に至っていない。「田中」は11月19日で、平年より6日、前年より8日遅かった。

開花盛期は「楠」が11月28日で、平年より1日早く、前年より6日遅かった。12月1日現在で「大房」及び「田中」は開花盛期に至っていない。

花房の出蕾は3品種共に平年より早かったが、開花の進みは「楠」は平年と同程度であり、「大房」及び「田中」は平年よりやや遅い傾向である。樹の生育は良好である。

表3 ビワの開花期 (暖地園芸研究所)

品 種	開花始期(月.日)			開花盛期(月.日)			開花終期(月.日)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	11. 7	11. 9	11. 8	11.28	11.29	11.23	-	12.31	12.18
大 房	-	11.25	11.20	-	12.23	12.27	-	2. 1	2.16
田 中	11.19	11.13	11.11	-	12. 8	11.29	-	1.16	1.21

平年：1982年～2009年の28年間の平均

【問合せ先:千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 果樹・環境研究室 電話0470-22-2961】

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/nousui/nourinsuisan/nourinsuisan.html>